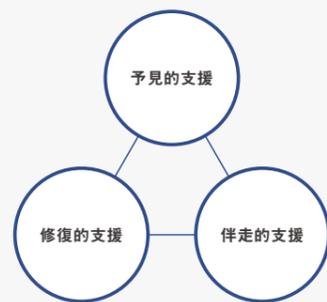


対人支援における大学と社会実践の連携を展望する

人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究」プロジェクトでは、「予見的支援」「伴走的支援」「修復的支援」の3つの領域において、研究と実践を連携させた新しい活動を展開することで、さまざまな人々が活躍できる社会の実現に向けた足場づくりを目指しています。今回、これまでの取り組みから見てきた国内の諸課題を整理し、さらに国際連携で拓かれる対人支援の可能性についても議論します。是非ご参加頂き、新しいインクルーシブ社会の在り方を、共に考えていきましょう。どうぞお越し下さい。



■ プログラム

- | | | |
|---------------|--|-------|
| 10:00 ~ 10:05 | 開会挨拶 | |
| 10:05 ~ 11:35 | 第1部 講演企画
高齢者支援活動場面の環境づくりーコミュニケーションの視点からー | 予見的支援 |
| | 講師: 北原 靖子 (川村学園女子大学文学部 教授 / 立命館大学人間科学研究所 客員研究員)
司会: 土田 宣明 (立命館大学文学部 教授) | |
| 11:35 ~ 11:45 | 休憩 | |
| 11:45 ~ 13:15 | 第2部 ポスターセッション
※軽食を用意しております。 | |
| 13:20 ~ 14:50 | 第3部 対談企画
修復と回復ー対人援助の新しい問題 | 修復的支援 |
| | 登壇者: 菅原 直美 (なら法律事務所 弁護士)、森久 智江 (立命館大学法学部 准教授)、中村 正 (立命館大学産業社会学部 教授) | |
| 14:50 ~ 15:05 | 休憩 | |
| 15:05 ~ 16:35 | 第4部 パネルディスカッション
伴走的支援の実践 | 伴走的支援 |
| | 登壇者: 谷 晋二 (立命館大学文学部 教授)、望月 昭 (立命館大学文学部 教授)、荒木 穂積 (立命館大学産業社会学部 教授)
司会: 竹内 謙彰 (立命館大学産業社会学部 教授) | |
| 16:35 ~ 16:50 | 休憩 | |
| 16:50 ~ 17:50 | 第5部 全体討論企画
対人支援における国際連携の可能性 | |
| | 登壇者: 松田 亮三 (立命館大学産業社会学部 教授)、吉田 甫 (立命館大学文学部 教授)、
谷 晋二 (立命館大学文学部 教授)、村本 邦子 (立命館大学大学院応用人間科学研究科 教授)、
小泉 義之 (立命館大学大学院先端総合学術研究科 教授)
司会: 稲葉 光行 (立命館大学政策科学部 教授) | |
| 18:00 | 閉会予定 | |

アクセス



立命館大学 衣笠キャンパス 創思館 (1階カンファレンスルーム)

- JR・近鉄 京都駅より 市バス50・205
- JR 円町駅より 市バス15・204・205
- 阪急電車 西院駅より 市バス205
- 阪急電車 大宮駅より 市バス55
- 地下鉄 二条駅より 市バス15・55
- 京福電車 三条駅より 市バス15・59
- 京福電車 等持院より 徒歩6分
- 市バス15・50・55・59にて「立命館大学前」下車/徒歩5分
- 市バス204・205にて「衣笠駅前」下車/徒歩10分 東門

follow us on
twitter



Find us on
facebook



お問合せ先

立命館大学人間科学研究所事務局

TEL 075-465-8358 FAX 075-465-8245 E-mail ningen@st.ritsumeai.ac.jp
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 HP: <http://www.ritsumeihuman.com>



対人支援における大学と社会実践の連携を展望する

立命館大学人間科学研究所年次総会・文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究」プロジェクト公開研究会

日時

2015年1月17日(土)
10:00-18:00 (9:30開場・入出り自由)

場所

立命館大学衣笠キャンパス
創思館カンファレンスルーム

※駐車スペースがございませんので、公共交通機関をご利用の上ご来場下さい。

参加無料
要事前申込

お申込み締切
2015年1月8日(木)

お申込みは、下記URL「お申込みフォーム」からお送りください。メールまたはFAXをご希望の方は、件名を「年次総会予約」とし、①氏名②ご所属③ご連絡先(E-Mail又は電話番号)④参加企画(裏面参照)⑤特別配慮等(手話通訳・託児等)ご希望の方はその旨をご記入の上お送りください。当日のご参加は可能ですが、席数や当日資料には限りがございますので予めご了承ください。



■お申込みフォーム
<http://www.ritsumeihuman.com/news/read/id/107>

■Email ningen@st.ritsumeai.ac.jp ■FAX 075-465-8245

【主催】立命館大学人間科学研究所

【共催】立命館大学生存学研究中心
立命館大学 立命館グローバル・イノベーション研究機構 特定領域型R-GIRO研究プログラム「対人援助学の展開としての学習学の創造」
立命館大学 立命館グローバル・イノベーション研究機構 拠点形成型R-GIRO研究プログラム「文理融合による法心理・司法臨床研究拠点」



対人支援における大学と社会実践の 連携を展望する

第1部 | 講演企画

予見的支援 10:05 ~ 11:35

高齢者支援活動場面の環境づくり —コミュニケーションの視点から—

講師: 北原 靖子 (川村学園女子大学文学部 教授 / 立命館大学人間科学研究所 客員研究員)
司会: 土田 宣明 (立命館大学文学部 教授)

企画趣旨

「予見的支援」チームは、様々な立場に置かれた人々が、社会的活動への正統的参加者として位置づけられるために、どのような設定や支援が最も有効であるのか組織的・系統的に検討しています。今回は、川村学園女子大学の北原靖子教授をお招きし、「高齢者支援活動場面の環境づくり —コミュニケーションの視点から—」と題してご講演いただきます。

北原靖子先生は、様々な世代を対象とした学びの「環境づくり」をご研究されています。さらに、北原先生は、今年度、学外研修の一環として、予見的支援チーム(高齢者プロジェクト)の活動にもご参加下さいました。専門家の目を通した高齢者支援での環境づくりについて、お話いただける予定です。

講師紹介

北原 靖子
川村学園女子大学文学部 教授 / 立命館大学人間科学研究所 客員研究員

金沢美術工芸大学を経て、2002年より川村学園女子大学へ着任。2014年、立命館大学人間科学研究所にて客員協力研究員。臨床心理士、臨床発達心理士。専門領域は発達心理学、発達臨床心理学。我孫子市放課後対策事業検討委員として、地域における児童放課後支援に関わる。日本心理学会、日本教育心理学会等、所属多数。

主な業績

- ◆川嶋健太郎・北原靖子・蓮見元子 (2014). 放課後の子どもの居場所の評価の実態—全国自治体による放課後子ども教室事業の事業目標と評価指標. こども環境学研究, 10, 2, 73-78.
- ◆北原靖子 (2012). 子どもを取り巻く環境へのアプローチ. 蓮見元子 (編著). 教育相談—子どもの理解とカウンセリング—, 12章, 164-172.

第2部 | ポスターセッション

11:45 ~ 13:15

発表者及び演題一覧は、研究所HPにて掲載しておりますので、下記URLよりご覧下さい。
【人間科学研究所HP】 <http://www.ritsumeihuman.com/news/read/id/107>

第3部 | 対談企画

修復的支援 13:20 ~ 14:50

修復と回復—対人援助の新しい問題

登壇者: 菅原 直美 (なら法律事務所 弁護士)、森久 智江 (立命館大学法学部 准教授)、中村 正 (立命館大学産業社会学部 教授)

企画趣旨

「修復的支援」チームは、「問題行動」「逸脱行動」「加害行為」に焦点を当て、加害者臨床を可能にする問題解決型司法の構築とその問題の解決を担う心理、教育、福祉等の具体的な内容の開発、司法との連携の仕方や手続き法等について検討します。こうした加害者臨床は、日本では社会的に十分に機能していません。そのためにもまずは理念が重要となります。

ここでは「修復的正義」に基づいた「回復的司法」または「治療的正義」というこれまでの日本にはなかった、あるいは潜在化していた概念を導入、可視化させ、人間科学の諸領域と対人援助の実践が協働して拓く新しい司法を展望し、ソーシャルインクルージョンにむかう道筋について具体的な提案をしたいと思います。

登壇者紹介

菅原 直美

なら法律事務所 弁護士

「刑事手続きは被疑者・被告人の生き直しの場である」をもとにして従来の情状弁護を超えた治療的司法(司法臨床や修復的司法も含む)のあり方を研究・実践中。奈良弁護士会の刑事弁護における入口、出口支援のありかたを検討するプロジェクトチーム、日弁連刑事法制委員会の医療観察法部会等。メンタル心理カウンセラーの資格を持ち、クレプトマニアの社会内支援専門職サークルの立ち上げなども行う。

主な業績

- ◆第7回季刊刑事弁護新人賞(優秀賞) 受賞論文「『生き直しの場』を模索すること」(『季刊刑事弁護』第69号)

森久 智江

立命館大学法学部 准教授

主な研究関心は、触法行為・犯罪行為を行った知的障害者や高齢者に対する社会的援助と刑事手続のあり方、障害のある少年の司法手続と処遇、修復的司法観と刑事責任の克服等。オーストラリア・メルボルン大学客員研究員。

主な業績

- ◆「修復的司法」加藤博史・水藤昌彦編著『司法福祉を学ぶ』(ミネルヴァ書房、2013年)
- ◆「障がいのある被疑者の取調べにおける支援と適正手続保障 —オーストラリア・ビクトリア州Office of Public Advocateの活動から—」浅田和茂・上田寛他編著『自由と安全の刑事法学: 生田勝義先生古稀祝賀論文集』(成文堂、2014)等。

第4部 | パネルディスカッション

伴走的支援 15:05 ~ 16:35

伴走的支援の実際

登壇者: 谷 晋二 (立命館大学文学部 教授)、望月 昭 (立命館大学文学部 教授)、荒木 穂積 (立命館大学産業社会学部 教授)
司会: 竹内 謙彰 (立命館大学産業社会学部 教授)

企画趣旨

「伴走的支援」チームは、直接支援、支援者支援、情報移行という3つの支援の研究を行っています。研究の対象は、障がいのある人、高齢者、児童養護施設で困難を抱える若者、社会的引きこもり状態にある人とその家族と多様です。また、研究方法についても多様な研究方法が用いられて

おり、そのため研究成果の表現方法も異なっています。今回のパネルディスカッションでは、それぞれのグループの研究の対象、方法、そして研究成果について紹介していただき、伴走的支援の全体像を描き出していきたいながら、今後の研究の展開について議論を深めていきたいと思います。

第5部 | 全体討論企画

16:50 ~ 17:50

対人支援における国際連携の可能性

登壇者: 松田 亮三 (立命館大学産業社会学部 教授)、吉田 甫 (立命館大学文学部 教授)、谷 晋二 (立命館大学文学部 教授)、村本 邦子 (立命館大学大学院応用人間科学研究科 教授)、小泉 義之 (立命館大学大学院先端総合学術研究科 教授)
司会: 稲葉 光行 (立命館大学政策科学部 教授)

企画趣旨

本企画では、各チームがこれまで取り組んできた国内外の活動事例の紹介や、今後の国際的な連携発展の可能性について議論いたします。まず、予見的支援・修復的支援・伴走的支援という3つの領域における日本国内の現状と課題を共有し、その後、文化・歴史・価値観において共通性が高い東アジア地域や、インクルーシブな社会の実現において先行していると言わ

れる欧米諸国の現状との比較検討によって議論を進めます。最後に、世界全体として対人支援の在り方はどのような方向に向かっているのか、日本・東アジア固有の対人支援はどのようなものであるべきか、さらに、文化・歴史・地域において多様な対人支援を融合・連携させるために、本プロジェクトはどのような貢献ができるのか、といった課題について広く議論を行います。